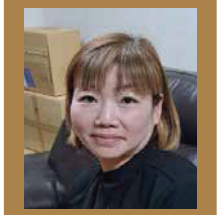
人材を活かす経営

外国人技能実習生・特定技能と共に歩む女性COO

株式会社　山英野菜（南九州市知覧）



「よかにせ大根」立上げまで

株式会社山英野菜は、子育てが一段落した２００４年から、夫婦協力して本格的野菜栽培をスタートさせました。

まずは、従業員が冬の間、仕事が少なく雇用が安定しないことから、従業員の雇用安定が急務でした。「稼ぐ力」を強化するため、野菜部門の収益増に向けた生産性の向上や差別化を図る必要に迫られました。

そのため、より商品の付加価値を高めるべく生産する野菜のブランド化に取り組み、「よかにせ大根」をブランドとした青首大根の生産を柱に拡大してきました。

外国人技能実習生とともに野菜づくり

ブランド「よかにせ大根」

露地野菜法人設立

２０１５年には（株）山英野菜として経営の法人化を果たし、一昨年には旦那様は会長となり、奥様が女性社長として就任しました。

法人では、「よかにせ大根」を柱とし、年間を通じてサツマイモ、ごぼう、バレイショ等の様々な野菜づくりと茶の経営にシフトし、１００ha規模の露地野菜を経営する農業生産法人に発展しました。

さらに、最近では地域の農産物販売にも力を入れようと、自らの生産物だけでなく、仕入れ販売にも取り組み、地域をもり立てています。地域からはキャベツ、レタス、スナップエンドウ、オクラなどを仕入れ、関東、福岡を中心に契約販売で出荷しています。

また、安心安全にも配慮し、G—GAPを取得し、従業員の生産工程管理の意識改革をしながら、生産に励んでいます。

労働力確保の取組み

これまで順調にいっているように見えますが、労働力の確保には苦労しており、ご近所さんのネットワークを中心にしながら、ハローワーク、シルバー人材センター、人材派遣会社等に求人を出しています。新しいものでは、今年から一日農業バイト「デイワーク」も活用しています。

しかし、求人募集をしても求職者は少なく、規模拡大を進める中で労働力不足が法人成長の足かせとなっていました。

日本人と外国人の区別のない山英野菜従業員

外国人技能実習生の受入

このような中、外国人技能実習生制度を活用し、安定的に外国人の若い労働者を受入れ、計画的に経営を発展させることができました。

受入者数

現在では、日本人の雇用９名と、外国人15名を受入れています。国別にみると、インドネシア９名（男性３名、女性６名）、フィリピン５名（全部女性、うち特定技能２名）、ベトナム１名（男性）となっています。

受け入れるための環境整備

寮にはＷｉ—Ｆｉ、テレビ、冷蔵庫、洗濯機等家電を完備し、国ごとに寮を分け、快適な研修生活が送れるよう工夫しています。

外国人技能実習生によるそば打ち体験

技能実習生の悩み事相談

共通語は日本語のため、日本語のレベルアップと作業の記録のために、研修生には日記の提出を義務付け、毎回社長が添削しています。

悩みごと相談は、個人面談、ＬＩＮＥ、日記によりこまめにケアをするとともに、病院への通院補助、自動車免許取得への支援などを行っています。

その甲斐もあり、これまで、大きなトラブルもなく、日本人と外国人の区別がないチーム山英野菜として働いています。

すべての従業員も一緒にバーベキュー

「おにぎり」のエール

社長自ら10時には、手作りのおにぎりを用意するなど細かな配慮に支えられて、従業員の表情は明るく、「心の壁、言葉の壁」がなくなっています。

日本人、外国人を問わず働き手の不満を減らし、経営発展につなげたいという強い思いを感じます。

さいごに

労働力確保は、雇用農家はもとより、地域全体の課題です。地域の人材・労働力を掘り起こすとともに、文化・習慣の違う外国人の受入れを通して、多様な人材が活躍できる労働環境づくりや農業経営の働き方を見直す契機としてほしいと思います。

■紹介

鹿児島県農業労働力支援センター（事務局　公社鹿児島県農業・農村振興協会　農林業技術部　農業労働力支援員　古賀　誠）